

埋文さかど年報

1

別所遺跡5区

調査区

坂戸市大字小沼字後谷

調査期間

平成25年4月4日～4月11日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

土 坑—3基（時期不明）
溝 —2条（平安時代・時期不明）

1. 別所遺跡5区

別所遺跡は、坂戸市の北東部の台地縁辺に位置します。北側には飯盛川いいもりがわが流れ、広大な低地が広がっています。

狭い面積の発掘調査でしたが、土坑3基と溝2条が発見されました。幅約2mの1号溝からは、平安時代の須恵器すえきつき坏が出土しました。



発掘調査の風景

2

大穴遺跡5区

調査区

坂戸市大字中小坂字大穴

調査期間

平成25年4月30日～5月24日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

竪穴状遺構—1軒（中世）
道路遺構—1条（中世）
井 戸—2基（中世以前）
土 坑—3基（時期不明）
集石土坑—2基（縄文時代）
ピット—6基（時期不明）



2. 大穴遺跡5区

大穴遺跡は、坂戸市の南東部の台地上に位置し、北側には大谷川おおやがわが流れています。

道路遺構からは、永享五年の文字が刻まれた板碑いたびが出土しました。また、道路遺構の下から、井戸2基も発見されました。



板碑の出土状況

3

村中遺跡3区

調査区

坂戸市大字堀込字西裏

調査期間

平成25年6月25日～7月12日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

井戸—1基（中世以降）
土坑—27基（中世以降）
溝—3条（時期不明）
ピット—10基（時期不明）

村中遺跡は、坂戸市の北西部の台地上に位置し、北側には越辺川^{おつべがわ}によって形成された低地が広がります。

今回の調査区からは、中世以降と考えられる井戸や土坑などが発見され、かわらけ^{ほうろく}や焙烙などが出土しました。



3. 村中遺跡3区



調査区全景

4

馬場遺跡4区

調査区

坂戸市大字塚越字馬場

調査期間

平成25年7月16日～8月8日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡—2軒（古墳時代前期、平安時代）
道路遺構—1条（奈良・平安時代）

馬場遺跡は、坂戸市の北東部、谷治川^{やじがわ}を臨む台地縁辺に位置しています。

今回の調査区の西隣では、過去の発掘調査によって、東山道武蔵路^{とうざんどうむさしみち}や平安時代の住居跡^{じゅうきょ}などが発見されました。

今回の調査では、古墳時代前期と平安時代の住居跡が発見され、土師器^{はじき}や須恵器などが出土しました。



4. 馬場遺跡4区



作業風景

2

5

新田前遺跡10区

調査区

坂戸市大字塚越字御門

調査期間

平成25年7月16日～8月9日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

溝－1条（奈良時代以降）



5. 新田前遺跡10区

新田前遺跡は、坂戸市の北東部の大宮住吉神社の周辺に広がる遺跡です。この遺跡からは、古墳時代から中世までの遺構が多く発見されています。

今回の調査区では、溝が1条発見され、底面付近から須恵器の壺が出土しました。



溝から出土した須恵器

6

西浦遺跡17区

調査区

坂戸市大字堀込字橋場

調査期間

平成25年7月8日～8月9日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

住居跡－1軒（平安時代）

集石土坑－1基（縄文時代）

井戸－1基（時期不明） 土坑－1基（時期不明）

溝－5条（時期不明） ピット－2基（時期不明）



6. 西浦遺跡17区

西浦遺跡は、坂戸市北西部の台地縁辺に位置し、東側には葛川が流れています。

この遺跡からは、古墳が多く発見されていますが、今回の調査区では検出されませんでした。

平安時代の住居跡は、北側に煮炊きを行うカマドが設けられ、須恵器坏や蓋、土師器甕などが出土しました。



平安時代の住居跡

7

中原遺跡6区

なかはらいせき

調査区

坂戸市大字堀込字番匠ヶ谷戸

調査期間

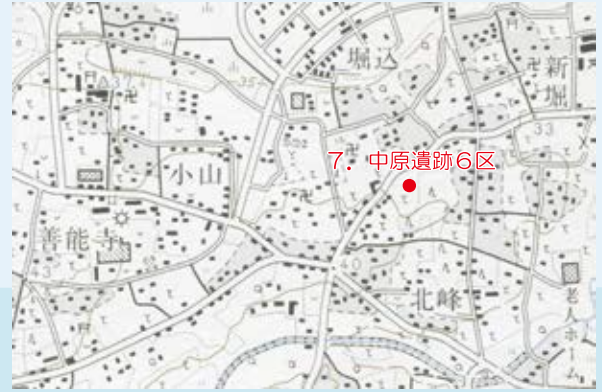
平成25年8月21日～8月23日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

土塁・堀（中世）



7. 中原遺跡6区

中原遺跡は、坂戸市の北西部の台地上に位置し、南側には葛川が流れています。

かつて、この周辺には土塁が良好に残っていましたが、近年の宅地開発により、多くが消滅してしまいました。

今回の調査区では、土塁がL字状に屈曲しており、幅約6m、高さ約1m、堀の幅は約4m、深さ約2mを測ります。



土塁（奥）と堀（手前）

8

長岡遺跡16区

ながおかいせき

調査区

坂戸市大字長岡字上耕地

調査期間

平成25年9月12日

調査原因

貯水槽新設

確認された遺構と年代

住居跡－1軒（縄文時代）



8. 長岡遺跡16区

長岡遺跡は、坂戸市の北西部に位置し、越辺川を臨む台地突端に立地します。

この遺跡は、縄文時代から奈良・平安時代にかけて、密集するように住居跡などが発見されています。

今回の調査区は、狭い範囲でしたが縄文時代の住居跡が発見され、少量ながら縄文土器片も出土しました。



作業風景

4

調査区

坂戸市大字善能寺字桜木

調査期間

平成25年5月13日～10月7日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

古墳—7基（古墳時代中期・終末期）

火葬遺構—1基（中世）

井戸—2基（中世）

土坑—5基（時期不明）

溝—2条（中世以降） ピット—16基（時期不明）



9. 善能寺古墳群1区

善能寺古墳群は、坂戸市の北西部、毛呂山町との境に位置する古墳群で、これまでに9基の円墳が確認されています。

今回の調査区では、古墳時代中期（5世紀後半頃）と終末期（7世紀）の古墳が7基密集して発見されたほか、中世の火葬遺構なども検出されました。

7世紀代に築造された10号墳は、方墳の可能性が考えられ、墳丘も高さ約1m残っ

ていました。また、横穴式石室には加工が容易な凝灰質砂岩が使用されています。

円墳の12号墳からは、周溝の中から大量の円筒埴輪をはじめ、土師器坏や壺が出土しました。円筒埴輪は、20個体近く発見され形態や技法の特徴から、5世紀中頃に製作された可能性が考えられます。

この埴輪は、坂戸市内で最古の埴輪となり、重要な発見となりました。



調査区全景



10号墳横穴式石室と墳丘



12号墳全景



12号墳埴輪出土状況

10

宮ノ前遺跡8区

みやの
まへの
まえい
せき

調査区

坂戸市大字片柳字中村

調査期間

平成25年10月29日～11月25日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

住居跡—1軒（奈良・平安時代）
井戸—1基（時期不明）
土坑—3基（時期不明）



10. 宮ノ前遺跡8区

宮ノ前遺跡は、坂戸市北部の台地縁辺に位置し、西側には飯盛川が流れています。これまでの土地区画整理事業に伴う発掘調査によって、古墳時代から中・近世の遺構が数多く発見されています。

今回の調査区では、一辺約4mの奈良・平安時代の住居跡が発見され、床面から土師器甕がつぶれた状態で出土しました。



住居跡から出土した土師器

11

花影遺跡24区

はな
かげ
い
せき

調査区

坂戸市中富町

調査期間

平成25年12月3日～12月11日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

溝—1条（古墳時代前期）



11. 花影遺跡24区

花影遺跡は、坂戸市の中央やや西側、高麗川によって形成された低地を臨む台地縁辺に位置します。これまでの調査では、縄文時代から中・近世までの遺構が数多く発見されています。

今回の調査区では、東西方向に走行する溝が1条発見され、古墳時代前期の土師器壺が出土しました。



調査区全景

調査区

坂戸市清水町

調査期間

平成25年10月8日～12月12日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

 古墳—1基（古墳時代終末期）
 土坑—2基（時期不明）
 溝—2条（中世）


12. 新山古墳群4区

新山古墳群は、坂戸市のほぼ中央の台地縁辺に位置し、西側には飯盛川が流れています。

これまでに12基の古墳が確認されていますが、昭和30～40年代にかけての大規模な宅地造成工事によって、その多くが消滅してしまいました。

今回の調査は、高さ約1.4mの墳丘が残る新山2号墳を中心に実施しました。調査

の結果、2号墳の周溝は幅約5m、深さは2m近く掘られている場所もあります。また、周溝の一边が約50mの方墳であることも分かりました。このため、2号墳はこの地域の有力者が葬られた古墳と考えられ、坂戸市周辺の古墳時代を考えるうえで重要な発見となりました。

なお、2号墳の墳丘は破壊せず、現状保存することが決まっています。



調査区全景



墳丘下から出土した緑泥片岩層



周溝の土層断面



1号溝から出土した板碑

調査区

坂戸市大字青木字堀ノ内

調査期間

平成25年11月21日～12月25日

調査原因

店舗建設

確認された遺構と年代

住居跡－7軒（奈良・平安時代）

掘立柱建物跡－4棟（奈良・平安時代）

井戸－1基（奈良・平安時代）

土坑－3基（時期不明） 溝－1条（時期不明）



13. 宮町遺跡9区

宮町遺跡は、坂戸市の北東部の台地上に位置し、西側には古代の官道である東山道かんどう武蔵路むさしみちが通っています。

この地域は、奈良時代になってから開発が進められたのが特徴です。これまでの調査によって、奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡が数多く発見され、古代の拠点的な集落であったと考えられます。

今回の調査でも、奈良・平安時代の住居跡や掘立柱建物跡、井戸などが密集して発見されました。住居跡からは、土師器や須恵器に加え、土製や石製の紡錘車ぼうすいしゃ、鉄製品なども出土しました。

また、掘立柱建物跡は一箇所に集中しているため、複数回の建て替えが行われたと考えられます。



調査区全景



掘立柱建物跡群



住居跡



住居跡から出土した須恵器坏

14

花影遺跡25区

はなかげ
いせき

調査区

坂戸市中富町

調査期間

平成26年1月22日～1月28日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡－1軒（縄文時代中期か）



14. 花影遺跡25区

今回の調査区は、花影遺跡24区の西側の台地縁辺に位置し、西側は高麗川によって形成された低地が広がります。

狭い範囲の調査区でしたが、縄文時代中期と考えられる住居跡の一部が発見されました。住居跡からは、縄文土器片が少量出土しています。



作業風景

15

宮裏遺跡31区

みやうら
いせき

調査区

坂戸市浅羽野

調査期間

平成26年1月20日～2月24日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡－1軒（奈良・平安時代）
井戸－1基（奈良・平安時代）
土坑－1基（時期不明） 溝－4条（中世以降）



15. 宮裏遺跡31区

宮裏遺跡は、花影遺跡の南西側に位置する遺跡で、土屋神社の境内には直径約50mの大型円墳が残されています。

発見された住居跡は、一辺約5mでカマドからは土師器甕が出土しました。また、井戸からも土師器や須恵器が出土したことから、住居跡とほぼ同時期に使用されていたと考えられます。



作業風景

調査区

坂戸市八幡

調査期間

平成26年1月14日～4月25日

調査原因

サービス付き高齢者向け住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡—12軒（奈良・平安時代）

掘立柱建物跡—9棟（奈良・平安時代）

井戸—2基（奈良・平安時代）

土坑—18基（時期不明）ピット7基（時期不明）



16. 山田遺跡16区

山田遺跡は、坂戸市の中央部の台地上、坂戸市役所の北西側に位置する遺跡です。これまでの調査によって、奈良・平安時代の遺構が数多く発見され、拠点的な集落であったことが知られています。

今回の調査でも奈良・平安時代の住居跡ほったてばしらたてものあとや掘立柱建物跡、井戸などが多く発見されました。

特に、掘立柱建物跡が集中的に発見されたのは今回が初めてで、5間×2間の規模の大きい掘立柱建物跡も含まれています。また、一辺約3mの大型の井戸も発見されました。

住居跡からは、土師器や須恵器に加え、紡錘車や土器に墨で文字を書いたぼくしょどき墨書土器も出土しています。



調査区全景



掘立柱建物群



カマド周辺の遺物出土状況



大型の井戸